



桐生が岡動物園

桐生が岡動物園は吾妻山のふもと、自然の丘陵を巧みに利用した桐生が岡公園の中に、桐生が岡遊園地と隣り合わせで設けられている。園内にはサクラやツツジなどの樹木が多く、花の名所としても知られている。公立の公園としては100年以上の歴史を誇り、年間40万人近くが来園する、世代を超えて親しまれる人気スポットである。

明治中期から個人の庭園として西宮神社方面から開発、森宗作、本田七九郎、書上文左衛門、原勢九助ら当時の桐生を代表する経済人たちが、私費を投じてサクラの植樹や休憩所を建設するなど、公園の基礎を整備した。大正5年に当時の桐生町に敷地が寄付され、私立公園から町立公園となり「桐生ヶ岡公園」と命名された。同10年ごろから動物園としての整備も進み、昭和28年4月1日「桐生ヶ岡公園動物園」として日本動物園水族館協会へ加盟し、正式に動物園として開園した。

平成4年4月には、現在の「桐生が岡動物園」に名前を変更し、さらに園の魅力向上のため、この数年で精力的に園内の施設整備が進められている。同20年にはクモザル舎とリスザル舎、27年には仔ライオンの飼育開始に伴い新ライオン舎を設置。いずれも、動物を間近に観察できるよう設計されており、その迫力と可愛らしい動きが子供から大人まで夢中にさせている。その他にもキリンやカンガルーなどの人気者から、鳥類、爬虫類など、121種736点が飼育されている。

そんな同園から悲しい知らせが届いたのは今年4月4日、長年、市民や来園者から愛されたアジアゾウのイズミが死亡した。国内アジアゾウの雌では最高齢の61歳11か月。昭和39年4月に桐生にやってきたイズミ、残念ながら同園で迎える53回目の春は、満開のサクラを見ることが叶わなかった。シンボルを失い悲しみが残るが、イズミが天国から園や後輩たちを見守っていると思いたい。



動物たちの息づかいを感じる
世代を超える憩いの場

- 住所／桐生市宮本町3-8-13 ●電話／0277-22-4442 ●開園時間／午前9時～午後4時30分
- 入園料／無料 ●休園日／なし ●HP／<http://www.city.kiryu.lg.jp/zoo/>